

羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針(案) 地区説明会  
質疑応答記録

開催日	令和7年6月19日(木)	会場	川俣小学校体育館
開始・終了時刻	19:00～20:00	来場者数	25人
質疑・応答内容			
<p>①-1 川俣小・羽生北小の合わせた児童数が現1年生90名、現2年生83名であり再編成後の学級数は何クラスになるのか。</p> <p>(教育総務課長) 1クラスの上限が35名と決まっているため、現状の人数のままであれば、両学年とも3クラスとなる。</p>			
<p>①-2 教員や介助員等を増加させる考えはあるのか。</p> <p>(教育総務課長) 教員の人数は、学校のクラス数によって決まってくるが、再編成時においては、教員を多く配置できないか市教育委員会から県教育委員会へ羽生東小と同様に働きかけを行っていく。</p>			
<p>①-3 4月から羽生東小が開校されたが、再編成後の意見を児童に聴く機会を作り、今後の説明会等でフィードバックしていただくことはできるのか。</p> <p>(教育総務課長) 市では、東中以来の再編成のため、再編成による効果について児童・教員に1年間経験していただき、検証をしていきたい。公表の方法や具体的なアンケート内容については、検討段階であるが、可能な限りホームページ等での公開に向け進めていく。</p>			
<p>①-4 基本計画(案)では、羽生北小の校舎を使用し、学校名については検討中とあるが、検討の結果、羽生北小として名称が変わらない場合には羽生北小の歴史を残すのか、それとも新校とするのか。</p> <p>(教育総務課長) 学校の名称については、再編成準備委員会を立ち上げての協議事項となる。基本的には両校とも閉校の上、新しい学校となることが基本スタンスである。仮に羽生北小になった場合は再編成準備委員会の協議の結果を反映していくことになる。</p>			
<p>①-5 羽生北小のプールは現在使用されていないが、再編成に合わせ修繕する予定はあるのか。</p> <p>(教育総務課長) 羽生北小、羽生南小、岩瀬小の3校は、今年度から民間事業者へ委託し水泳の授業を行っている。再編成後についても羽生北小のプールは改修せず、引き続き委託での対応になると考える。</p>			
<p>②-1 羽生北小の駐車場は停められる台数が少なく、運動会や授業参観等のイベント時が不安である。川俣小は、多くの車を停めることができていたため、今後拡張などは考えているのか。</p>			

(教育総務課長) 羽生北小の駐車場が不足していることは把握しており、課題として残るが、可能な限り対応していく。中央公民館や市民プラザの駐車場を借りるといった場面も考えられ、保護者の方への負担が生じることはあると考えている。それでも、子どもたちに一定の集団で切磋琢磨しながら学んでいく環境を整えていくことがより良いのではないかと考え、再編成に向け検討しているところである。

②-2 地理的にも、川俣小の方が羽生北小と川俣小の学区の真ん中に位置しているが、川俣小の校舎を使った再編成は考えていないのか。

(教育総務課長) 市内公共施設の今後の方針を定めた公共施設個別施設計画があり、また、現在の基本方針でも小学校の校舎は既存の校舎を使用し、新たに建設することにはなっていない。川俣小は、9 教室あり、1 学年 2 学級を収容する教室数はない。また特別支援学級も増えてきているため、教室数が多くある羽生北小の校舎を使用する案となっている。

②-3 川俣小は、P T A や地域の方々の協力が活発で優秀であると思っており、その点でもコミュニティスクールとして川俣小を残すことは出来ないのか。

(教育総務課長) 川俣地区の P T A や地域が協力的なことについては、認識している。様々な御意見はあるかと思うが、各学校とも地域に支えられながら学校運営を行ってきており、優劣はつけられない。地域の皆さんで一つの新しい学校を作っていくという考えで取り組んでいただけないかと思う。

②-4 再編成によるメリットは理解したが、人数が増えることにより、目がいき届かなくなり、不登校となる児童が増えてしまうのではないか。

(教育総務課長) 羽生東小の再編成時にも同様の意見があり、特に村君小は複式学級があったため保護者の方から御心配の声をいただいた。児童の様子を知る村君小の教員の配置や、問題が起きた際の対応に長けた教員の配置を市教育委員会として配慮しており、同様の対応をとっていく。

②-5 今後も人口が減っていくことが予測されるため、中学校の再編成は考えていないのか。

(教育総務課長) 今回の再編成(案)では将来的に三つの義務教育学校を設置していくこととなっている。学校校舎の鉄筋コンクリート構造については耐用年数を 80 年と定めており、今から 30 年から 35 年後に中学校の校舎の建て替え時期となる。一つの案としては、その時に義務教育学校の設置が考えられ、その時点での児童生徒数によっては 2 校体制となることも想定される。

③ 地区説明会は、今後も開催していくのか。

(教育総務課長) 今回の地区説明会は本日で 2 回目であり、今後も再編成対象校の体

育館等を使用し合計で 8 回開催予定となっている。併せて、パブリックコメントを実施し、広く市民からの意見を募集している。その後、地区説明会及びパブリックコメントによりいただいた意見を基に基本方針（案）を決定していきたいと考えている。校名、校歌、スクールバスなど具体的な内容については今後再編成準備委員会を立ち上げ協議し、協議内容は適宜公開していくことを想定している。

- ④ 羽生東小の再編成前に実施された交流事業の内容と頻度を教えてほしい。

（教育総務課長）3 校での交流事業は各学年 1 学期に 1 回行われ、2 年間で多くて 6 回実施された。具体的な内容については、5 年生の林間学校への 3 校での参加、スポーツイベント、羽生水郷公園での見学などである。再編成後の子どもたちが、同じ学年に顔見知りが増えており、羽生東小の開校に当たっては有効な交流であったと認識している。

- ⑤ P T A 活動について、川俣小は P T A の人数が少なく保護者の負担は大きい。羽生東小は P T A の人数が増えたことによる保護者の負担は、軽減されたのか。

（教育総務課長）P T A 活動については、再編成準備委員会の中に P T A 部会を設置し、羽生東小の P T A 活動について協議を行った。3 校とも活動内容が異なっていたため、最終的に活動を限定し P T A の組織を編成した。再編成前と比べると、活動は減ったと思われるが、動き出したばかりのため経過を見ていく必要がある。

- ⑥ 羽生北小の教室数と、今後特別支援学級が増えても対応できるのか確認したい。

（教育総務課長）教室数は 23 であり、学習センターや特別支援教室として活用しているが、少し空き教室はある。

- ⑦ 閉校となった三田ケ谷小・村君小は、今後どのようなようになっていくのか。

（企画財務部長）三田ケ谷小、村君小の跡地利活用は、改めて、地元説明会を開催した後、各々、個別計画を策定して進めている。現在、両校とも年度内での引渡しに向け、三田ケ谷小は、民間事業者への賃貸、村君小は、民間事業者への売買、できるように準備を進めている。なお、8 月上旬から公募できるように諸々、調整中である。